

目標理論に社会性の視点を導入したモデルの検討

Examination of Social Viewpoint's Model Introduced to Achievement Goal Theory

江面 修 (Osamu Edura) 指導：菅野 純

【はじめに】

本研究は、動機づけの中の目標理論に他者と関わりを持つという社会性の視点を加えたものである。動機づけ研究で取り上げられている目標理論に社会性の視点を加えた先行研究は、探索した範囲では発見することができなかった。そこで、本研究では、学習場面において他者との関わりを仮定しない個人内の動機づけ（以後他者との関わりを仮定しない個人内の動機づけをパーソナルとする）とともに、集団の中で他者と関わりを持った中での動機づけ（以後他者との関わりを持った中での動機づけをソーシャルとする）について検討していく。

【目 的】

第1研究では、速水（1998）の研究における学習目標、成績目標 α 、成績目標 β という動機づけの分類に加えて、各目標に他者との関わりを持つという社会性の視点を加味して分析することを目的とする。

第2研究では、親の養育態度とクラスの雰囲気の項目を分類し、子どもを学業へ動機づける方法を検討することを目的とする。

【方 法】

目的に従い大学生を対象にして、社会性の視点を加えた学習の目標理論に関する質問紙調査と親の養育態度に関する質問紙調査を行った。質問紙は専門家に指導を受け作成した。調査対象者は、千葉県内の大学に通う大学生であった。最終的に有効回答者は合計263名となった。調査時期は、2012年6月6日であった。調査方法は、5件法の回答選択形式の質問紙調査を集団調査形式で実施した。

【結 果】

主因子法による因子分析の結果、パーソナルは「パーソナル承認」因子、「パーソナル内発的」因子、「パーソナル成績向上」の3因子構造であった。ソーシャルは「パーソナル成績向上」因子、「ソーシャル承認」因子、「ソーシャ

ルクラス向上」因子の3因子構造であった。「パーソナル成績向上」因子と「パーソナル承認」因子に正の有意な相関 ($r=.614$) が見られ、「ソーシャルクラス向上」因子と「ソーシャル承認」因子とに、有意なやや強い正の相関関係 ($r=.691$) が見られた。さらに、親の養育態度の項目の主因子法による因子分析の結果、「協力」因子、「競争」因子の2因子構造であった。また、「協力」因子と「競争」因子には正の相関関係 ($r=.476^{**}$ $p<.001$) があることが確認された。

パーソナルおよびソーシャルと、養育態度とのパス図を作成した結果、パス図より、他者との関わり合いを通した上での動機づけと、親の養育態度では、養育の「競争」因子と「パーソナル承認」因子、「ソーシャル承認」因子が他より強い関連があることがあった。

【総合考察】

第2研究の結果より、パス図を作成した。これらを基に考察すると、人に勝つように育てることで、ほめられたいから頑張るというようになることが推察できる。親は子どもが人に勝ったことで子どもをほめ、その結果として、子どもの承認欲求が高まると考えられる。さらに、班やチームで協力して勝つことで協力するようになると推察できる。

第2研究の結果より、他の人に勝つように育てても学校などで集団生活をするために、協力することを学ぶのである。そして、ほめて育ててもほめられたいというだけでなく、良い成績をとりたい、前より成績を上げたいという向上心も共に育つのである。また、他の外的誘因と異なり、ほめること、つまり、言語報酬は内発的動機づけを低めることなく、高めると考えられている。

第1研究の結果より、ほめて育ててもほめられたいというだけでなく、向上心も共に身につくことも分かる。さらに第2研究からの結果は、競争と協力が共に成り立つことが分かる。また、作成したパス図の結果より、ほめて育て、学業に動機づければよいということが分かる。

つまり、子どもをほめて育てればよいのである。